

特集

気候変動問題への取り組み

THE ENVIRONMENT

近年の最も大きなグローバルリスクの一つとなっている気候変動問題の深刻化*1については当社も重要課題の一つとして認識しており、気候変動リスクの顕在化を未然に防ぐための取り組みや、高い目標のもとでのCO₂排出量削減等に努めるとともに、お客様の省エネルギーや環境負荷の低減にも貢献しています。

*1 出典：グローバルリスク報告書2020/世界経済フォーラム

CO₂排出量のさらなる削減に向けて、「2030年度目標」達成へのロードマップを策定

気候変動リスクの増大要因の1つであるCO₂排出の削減に向けて、当社は、事業拠点における燃料転換や高効率設備への更新、LED照明への切り替えや高効率ボイラーの導入に取り組んでいるほか、物流においても、モーダルシフトや共同配送、ミルクラン等を取り入れています。加えて、ESCO事業や二国間クレジット*2など新たな手法も積極的に導入しています。これら一連の取り組みにより、2019年度のCO₂排出量は50,399t(1990年度比15.7%削減)となり、「CO₂排出量を2020年度までに1990年度比20%削減する」という「2020年度目標」の実現に向けて着実に歩んでいます。また、2019年に策定した「CO₂排出量を2030年度までに2013年度比18%削減する」という「2030年度目標」の達成に向けて、現在、ロードマップの作成を進めています。

*2 二国間クレジット：先進国が途上国に技術や資金を提供してCO₂排出を行い、それによって得られた削減分を、先進国が自国の削減目標にカウントする二国間制度



モーダルシフト

高効率設備への切り替え

高効率ボイラーの導入(二国間クレジット)



豪雨災害による物質漏洩リスクを軽減するための近年の取り組み

- 加古川事業所：油水分離経路の防油堤かさ上げ
- 和歌山事業所：産廃置き場の雨水侵入防止対策/ 廃油漏洩防止対策
- 足利事業所：水質監視装置の設置

2018年

2019年



気候変動問題にまつわる当社のリスクとBCP

地球温暖化を背景とした大型台風や集中豪雨といった異常気象の頻発にともない、当社グループの各事業所における生産設備等への損害発生や一時的な操業停止のリスク、および生産設備の被災による化学物質等の漏洩・流出リスクが高まる可能性があります。当社は、国内4工場がそれぞれ被災したことを想定したBCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)を策定するとともに、リスクの顕在化を未然に防ぐための様々な取り組みを実施しています。

気候変動リスクの顕在化を未然に防ぐための取り組み

大型台風や集中豪雨等によるリスク顕在化を防ぐ取り組みの一例として、各工場における水質事故未然防止策等を強化しています。加古川工場では、豪雨災害による油漏れ等への対策を強化し、油水分離装置や汚水タンクの補強、防水壁の設置、防油堤のかさ上げのほか、緊急事態を想定した油漏れ非常対応訓練を実施しています。また、南海工場や和歌山工場では、水質汚染防止のための雨水侵入防止や廃油漏洩防止対策を進めているほか、足利工場では水質監視装置を設置しました。



加古川工場における油漏れ非常対応訓練(左)と農業用水取水口への蓋の取り付け(右)



南海工場に設置した油膜検知器



足利工場に設置した水質監視装置

VOICE



集中豪雨による廃棄物や液体系原材料の漏洩、水質事故といった気候変動リスクの顕在化を防ぐには、日常よりそうしたリスクを抽出し、未然防止活動を推進することが基本であると考えています。加えて、強化月間を設けて集中的に管理状況を確認しながら啓発活動を行うとともに、環境汚染予防パトロールの定期的な実施や、工場間における事例の共有も重視しています。

ものづくりセンター 安全・環境推進室 室長